# Za・あく"りふおーむ

2021.5.6 Vol.15



## 桜並木と菜の花ロード

撮影日:令和3年4月15日

撮影場所:大潟村

# ❤ 目次

生点	産現:	場情	報	:玉	ねぎ	裁培∂	の規模	模拡:	大中	$^{\neg}$	(株	) ^	ヾジ	リン	ク ā	うきり	こ男	鹿~	•	• •	•	•	•	• P	1 ~	~ 2
営	農支	援情	報	: 水	稲田村	直え往	後の き	栽培	管理	里の7	ポイ	ント	•			•			•		•	•	•	• P	3 ~	~ 4
県	外	情	報	: J	A全層	農ある	きた	新拠	点	「消	費地	販売	も事	務所	]	と 開言	殳•		•		•	•	•	• P	5	
ご	糸	7   	介	: 1	)「株	式会社	生秋I	田県	食肉	自流流	通公	社"	高原	<u>[</u> /\_/	ムセ	ット	"」,	が紹	介	され	lま	しる	た・	Р	6	
				(2)	食農	数育し	にか	かる	補目	力数;	材贈	무구	<del>.</del> .		•							•		• F	7	

## ◆ 生産現場情報

# 玉ねぎ栽培の規模拡大中!~株式会社ベジリンクあきた男鹿~

#### 1. 会社設立の経緯等

男鹿市若美地区管内には約300haの畑地があるが、他地域と同様に農家の高齢化等が進展し、次第に遊休畑が増えてきている状況にありました。

こうした中にあって、鵜木地区で稲作を中心とした複合経営を展開してきた三浦利通(みうらとしみち)さんは経営規模の拡大に伴って、経営の安定化や雇用労働力の確保等に向けて、平成21年3月、稲作とそれ以外の経営を切り離し、複合作目に特化した(株)ベジリンクあきた男鹿を設立しました。

#### 【会社概要】

設立 平成21年3月27日 資本金 7百万円(出資者5名) 代表取締役 三浦 利通 所在地 男鹿市鵜木字エソガ台87-1



代表 三浦 利通さん

#### 2. 経営の概要等

遊休畑を有効活用し、主に野菜を中心とした生産・販売により消費者へ安全・安心な食材を提供することをモットーにしています。そして、若い人材を雇用し、将来の地域農業後継者を育成することを目標として事業展開しています。

経営の概要(令和3年計画)は、大豆25.0 h a、玉ねぎ10.0 h a、小麦3.0 h a、キャベツ3.0 h a、メロン1.6 h a、促成アスパラガス1.0 h a、小玉すいか0.3 h a、ほうれんそう0.3 h aなどとなっており、約50 h aの農地で常時雇用5名、臨時雇用5名で農業機械を有効活用しながら農業生産を行っています。



定植前のメロン苗(4月15日)

なかでも、今年が収穫3年目となる玉ねぎ(秋植え)は、JA大潟村の乾燥施設を利用しながら年々拡大しています。また、安定的な雇用の確保のため、冬期間は促成アスパラガスとほうれんそうを栽培しています。

栽培にあたっては、堆肥の投入など土づくりに こだわり、消費者重視の目線で高品質で安全・安 心な農作物生産を心がけています。

#### 3. 今後に向けて

玉ねぎについては、土地利用型の有望作物として地元 J A とも連携し、玉ねぎ専用 B B 肥料 【※】(一発型)の試験栽培等も実施しながら、安定的な収量確保を図り、さらなる作付け面積の拡 大を目指しています。

また、インターンシップ制度(就農前研修)で2週間の体験研修終了後、(株)ベジリンクあきた男鹿へ雇用の形で就農した県外出身の若者もおり、代表の三浦利通さんは、「農家個人では限界はありますが、会社経営での雇用創出で地域農業の後継者育成にも力を入れ、知識と技術を伝承し、若者の感性を融合させながら地域農業の発展につなげていきたい」と話していました。

#### 【※】BB肥料とは?

Bulk(バルク) = 粒、Blending(ブレンディング) = 配合 の頭文字からつけた名前です。化成肥料は肥料原料を粉砕混合し、1粒にしたもので1粒の中に窒素、リン酸、加里などの肥料成分が含まれています。BB肥料は2種類以上の粒状肥料を単純に混合したもので、土壌診断に基づき、地域、土壌、作物に適した肥料を造ることができます。





広大な玉ねぎ畑(4月15日)

# ❤ 営農支援情報

### 水稲田植え後の栽培管理のポイント



令和2年産米については、7月に降水量が多く日照の少ない日が続いたため、中干しによる稲の体質改善ができなかったことと、<u>いもち病の感染好適日が相次いだ</u>ことにより、特に県南部で葉いもちの発生が多く確認されました。

また、茎数が過剰になり、草丈が長いほ場では、<u>倒伏した稲が散見</u>され、特に県中央部、県南部で多く見られました。

このようなことから、令和 2 年産米の稲刈り後のほ場には、<u>藁(わら)が多くすき込まれていることが想定</u>されます。このため令和 3 年産米は、田植え後に気温の高い日が続いた場合、<u>異常還元</u>による生育の抑制(初期の生育抑制)が懸念されます。

異常還元が進行すると、表層剝離やアオミドロ等の発生が多くなり、地温や水温が低下し生育が 抑制されるので、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行うなどの対策を行ってください。

気象庁が4月24日に発表した3か月予報では、<u>向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われや</u> <u>すいため「高い」</u>と予想しています。

また、湿った空気や前線の影響を受けやすい時期があるため、<u>7月の降水量と、向こう3か月を</u>通した降水量は「平年並み」か「多い」としています。

高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎(中苗では主茎と第3~6節1次分げつ、稚苗では、 主茎と第2~5節1次分げつ)を主体とした目標穂数につながる初期生育(茎数)の確保が重要と なります。

特に、田植え時の気象(中苗は14 °C以上、稚苗は13 °C以上の日で、できれば日中の最高気温 20 °C以上)、栽植密度(70 株/坪)、植え付け本数(中苗  $3\sim4$  本、稚苗  $4\sim5$  本)、植え付けの深さ(中苗 2.5 c m、稚苗 2 c m)に注意し、活着と分げつを促進させる水管理で有効茎歩合の高い稲づくりを目指しましょう。

#### ◆田植え後から活着までの水管理

苗の活着(通常4~5日で活着する)は、気温、水温とも高いほど早くなります。

この時期の水温は、気温に比べて日平均で3~4°C高いので、<u>田植え直後は水深を4 c m程度と</u>し、保温効果を高めるため、できるだけ湛水状態にしましょう。

長期間深水にすると、かえって地温が上がらず、生育が悪くなるので、田面の均平をはかり苗が 水没しないように注意してください。

#### ◆分げつ期

分げつの発生は、日平均水温で23~25℃、日気温較差が大きい場合に促進されます。

活着を確認したら、分げつの発生を促進させるため浅水管理とし、水温と地温を高め、日気温較差を大きくすることが大切です。このため、できるだけ<u>湛水時刻は水温の低い早朝に短時間</u>で行いましょう。

低水温の地帯では、温水田、迂回水路、ポリチューブなどを用いて積極的に水温上昇に努めてください。

#### ◆除草剤の適正・安全使用

河川の水質保全などを考慮し、移植前に初期除草剤を使用しないでください。雑草の発生が多いと想定される場合には、移植後の初期除草剤と一発除草剤との体系処理を行ってください。使用にあたっては、処理時期・処理量・水管理などの使用基準は守りましょう。

除草剤散布後<u>7日間は止水を行い、かけ流しや</u> 排水路への落水は行わないでください。また、降 雨などによって除草剤が流出しないように<u>水管理</u> を徹底してください。

近年は気象変動が大きく、除草剤が適期に使用されない場合があります。水田内に残る雑草が多いと収量および品質低下を招くとともに、アカスジカスミカメの寄主となり斑点米の発生も助長するため、除草剤は使用基準を守り適期に使用してください。



写真:アカスジカスミカメ (秋田県の主要加害種)

#### ◆余り苗は速やかに処分

余り苗はいもち病の発生要因となり周辺ほ場への伝染源となりますので、<u>直ちにほ場に埋める</u>など速やかに処分してください。

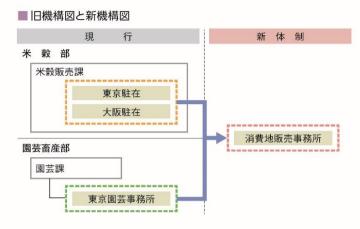
米穀部 米穀総合課 2018-845-8030



# ❤ 県外情報

# JA全農あきた新拠点「消費地販売事務所」を開設

JA全農あきたは、令和3年度から秋田米新品種販売開始を見据えた県産米の需要拡大、県産青果物の直販拡大、流通変化に対応したマーケティング機能強化のため、消費地販売拠点を東京都港区内に集約・設置しました。今後も消費地の動向を的確に把握した有利販売に努め、生産者の手取り確保に取り組みます。





福田芳武所長(写真:前列中央)を始めとする 消費地販売事務所メンバー

消費地販売事務所 203-5843-4275

# → ご紹介

# 「株式会社秋田県食肉流通公社"高原ハムセット"」が紹介されました ~ラジオ番組「あぐりずむ」~

毎週木曜日の $15:50\sim16:00$ (地域により放送時間が異なります)に放送しているラジオ番組「あぐりずむ~ニッポンいただきます紀行~」では、JA全農が運営する産地直送通販サイト「<math>JAタウン」にズラリとそろった全国のおいしいモノをお取り寄せし、生産者の声や開発の道のりなど商品の魅力を紹介しています。4月22日の放送では、(株)秋田県食肉流通公社の「高原ハムセット」が紹介され、金山一孔加工部長が電話出演をしました。



番組パーソナリティーの川瀬良子さん



自慢の商品をPRしました。 (秋田県食肉流通公社:金山一孔部長)

番組オンエアレポートはこちらをご覧ください→(番組HP https://www.tfm.co.jp/itadakimasu/)



営農支援部 営農支援課 ☎018-864-2461



# 食農教育にかかる補助教材贈呈式

JA全農あきたは、平成18年から小学生向けの食農教材を作製、贈呈しています。平成22年からは、お米や野菜、果物、畜産物などの県産農畜産物や、農業と食に関する情報を掲載したクリアファイルなどを贈呈してきました。

今年度は、米作りの学習に役立ててもらえるよう「秋田のお米づくりカレンダー」と「秋田県の農業」に興味を持ってもらえるようお米の生産量や品種などを掲載した下敷きのほか、食料自給率が食生活の変化などにより、低い水準となっていることや、食料の多くを輸入に頼ることの問題点に触れ、子供たちが日頃の食生活で実践できる事例を紹介したパンフレットを作製しました。下敷きとパンフレットは、県内の小学5年生と特別支援学校の児童・生徒に届けられます。



「秋田のお米づくりカレンダー」と「秋田の農業」 を掲載した下敷き



「日本の食材自給率を考えよう」をテーマにした パンフレット

管理部 企画管理課 ☎018-864-2422



# Za・あぐりふぉーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農物等在営農情報誌 Zar协约55年(19 第15号 令和3年5月6日発行

編集 発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462

#### Za・あぐりふぉーむのメール配信申込み受付中です!

「Za・あぐりふぉーむ」は月1回のペースで発行(原則として毎月5日、無料)しています。 メール配信をご希望の方は、全農あきた営農支援部営農支援課(E-mailアドレス:zz\_ak\_einousien @zennoh.or.jp)まで、住所(又は所属機関・団体名)・氏名・E-mailアドレスをお知らせください。 ※頂いた個人情報は「Za・あぐりふぉーむ」の配付以外には使用いたしません。